

日米投信概況

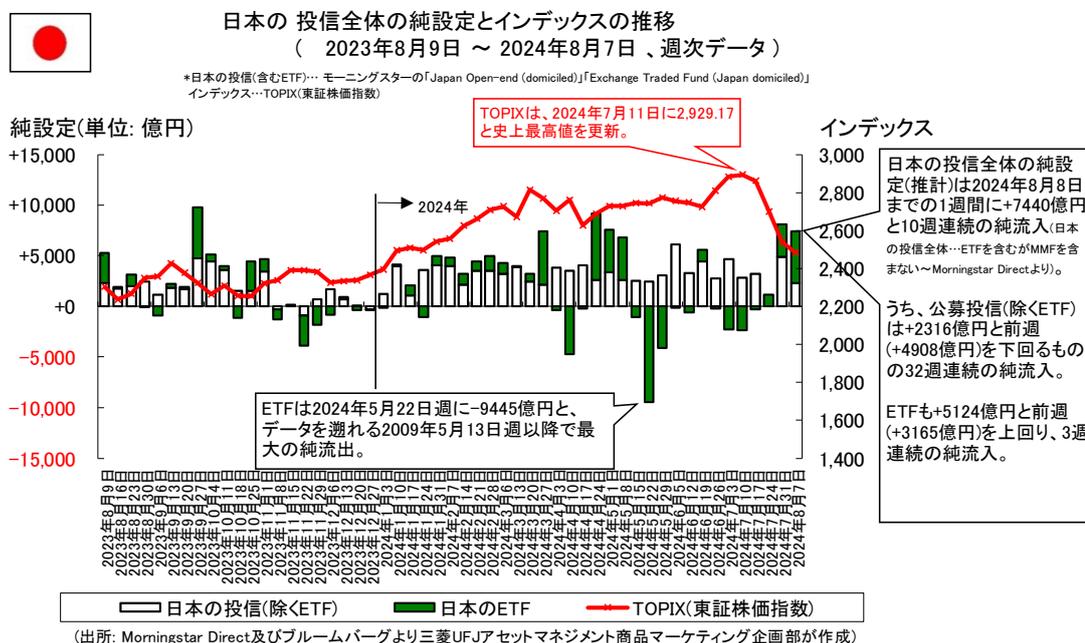
**日本版ブラックマンデーで投信は2日連続解約超となった後、設定超に！
日本株ファンド(除くETF)は19営業日連続設定超を更新中!!
米国ではハイテク株や日本株が解約超、インド株や公益株が設定超**

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部 松尾健治 (kenji-matsuo@am.mufg.jp)
窪田真美 (mamii-kubota@am.mufg.jp)

- 日本版ブラックマンデーで投信は2日連続解約超となった後、設定超に！
日本株ファンド(除くETF)は19営業日連続設定超を更新中!!.....p.1
- 米国ではハイテク株や日本株が解約超、インド株や公益株が設定超.....p.6

**●日本版ブラックマンデーで投信は2日連続解約超となった後、設定超に！
日本株ファンド(除くETF)は19営業日連続設定超を更新中!!**

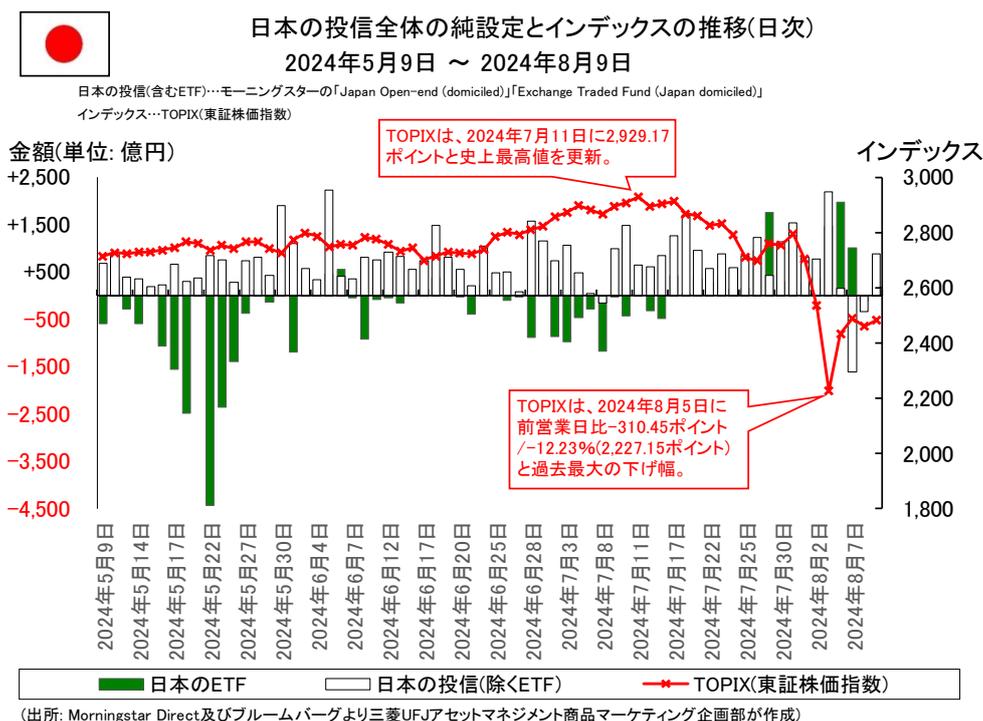
日本の投信全体の純設定/資金フロー(推計)は2024年8月7日(水)までの1週間に+7440億円と10週連続の純流入(2024年8月9日までの日次流出入は後述、日本の投信全体…ETFを含むがMMFを含まない～Morningstar Directより)。うち、公募投信(除くETF)は+2316億円と前週(+4908億円)を下回るものの32週連続の純流入。ETFも+5124億円と4月26日週(+6568億円)以来約3か月強ぶりの大きな純流入となり、3週連続の純流入。



2024年8月5日(月)に日経平均が過去最大の下げ幅を記録した「日本版ブラックマンデー」(米国では「Another Black Monday」、「2024 Black Monday」などと言われる～後述※1)が起り、投信は2日連続解約超となったが2024年8月6日(火)に日経平均が過去最大の上げ幅を記録、8月9日(金)には設定超に戻っている(2024年8月8日付投信調査レポートNo.420「日本株が過去最大の下げ・上げを記録した時に日本株ファンドに流入！米国ではハイテク・公益・ヘルスケアのファンドに流入！インド株や日本株のファンドは流出」～https://www.am.mufg.jp/report/investgate/report_240808.pdf、2024年8月8日付日本版ISAの道 その407「日経平均が過去最大の下げと上げ！金融

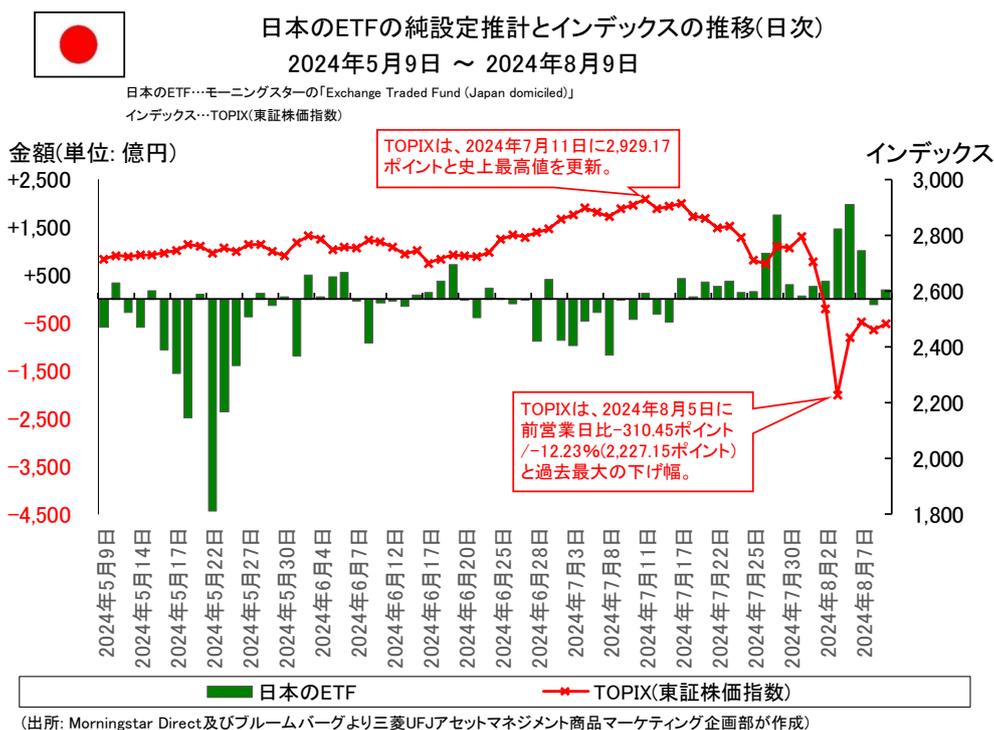
経済教育、行動コーチング等アドバイスが求められる時～ハイテク(半導体)株やインド株を含む多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証～」～https://www.am.mufg.jp/report/investgate/column_240808.pdf)

日本の投信全体の純設定/資金フロー(推計)を日次で見ると、2024年8月1日(木)+1,088億円、8月2日(金)+1,159億円、8月5日(月)+3,653億円、8月6日(火)+2,135億円、8月7日(水)-586億円(2024年7月8日以来の解約超)、8月8日(木)-442億円、8月9日(金)+1,078億円。

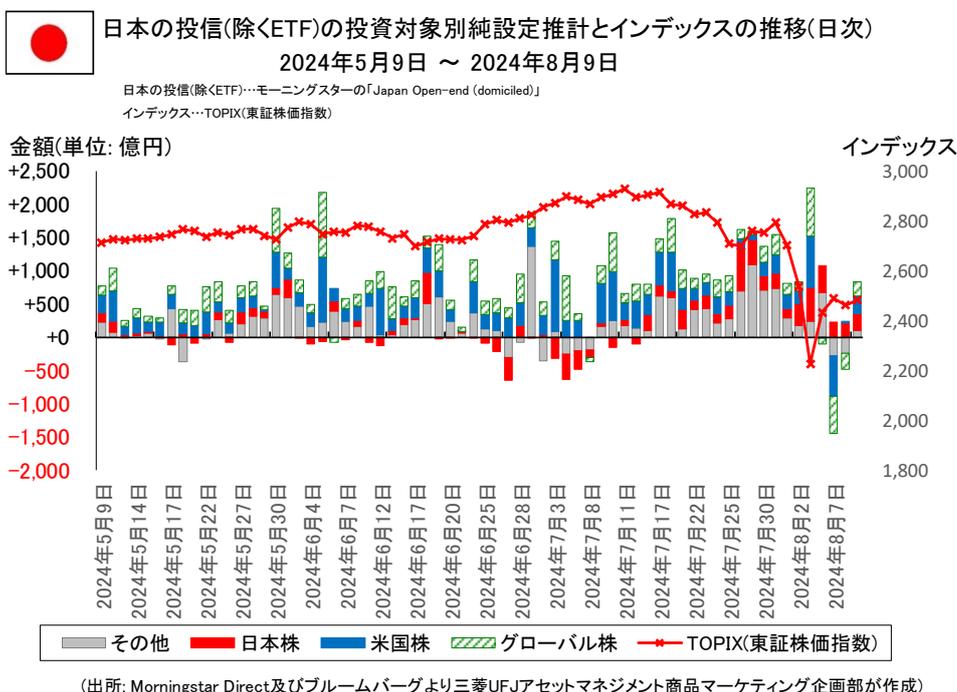
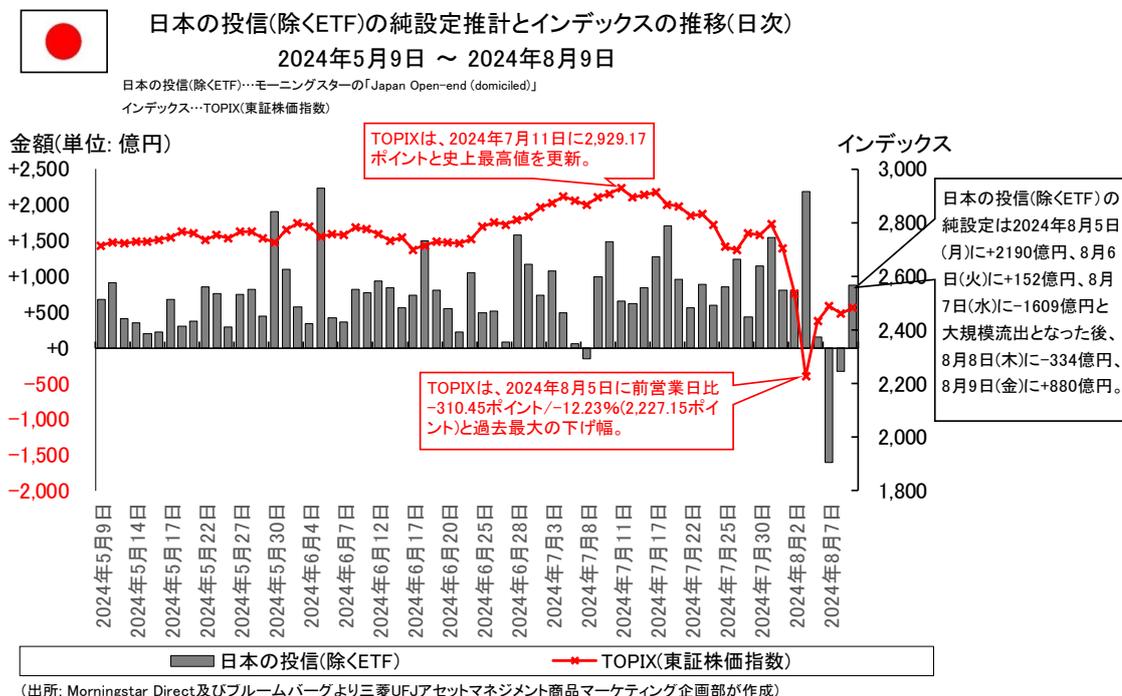


うち、ETFは8月1日(木)+276億円、8月2日(金)+380億円、8月5日(月)+1,463億円、8月6日(火)+1,982億円、8月7日(水)+1,023億円、8月8日(木)**-108億円**、8月9日(金)+198億円。公募投信(除くETF)が8月7日(水)**-1,609億円**に対し、ETFが8月7日(水)+1,023億円は対照的である。8月5日(月)と8月7日(水)に大型日本株ETFでプレミアムが過去最大級となっており、大量現物拋出設定を伴う裁定取引の起きた可能性がある(その後すぐ現物交換と言う大量解約の起こる可能性。2024年8月8日付投信調査レポートNo.420「日本株が過去最大の下げ・上げを記録した時に日本株ファンドに流入！ 米国ではハイテク・公益・ヘルスケアのファンドに流入！ インド株や日本株のファンドは流出」～ https://www.am.mofg.jp/report/investgate/report_240808.pdf)

なお、日本株ETF全体は8月1日(木)+259億円、8月2日(金)+331億円、8月5日(月)+1,410億円、8月6日(火)+1,161億円、8月7日(水)+603億円、8月8日(木)**-182億円**、8月9日(金)+228億円である。



公募投信(除くETF)は8月1日(木)+812億円、8月2日(金)+778億円、8月5日(月)+2,190億円、8月6日(火)+152億円、8月7日(水)-1,609億円(2024年7月8日以来の解約超)、8月8日(木)-334億円、8月9日(金)+880億円。うち、日本株ファンド(除くETF)は8月1日(木)+143億円、8月2日(金)+325億円、8月5日(月)+506億円、8月6日(火)+400億円、8月7日(水)229億円、8月8日(木)+215億円、8月9日(金)+257億円と、7月12日から8月9日まで19営業日連続設定超を更新中(※1参照)。



8月7日(水)の1日で公募投信(除くETF)が**-1,609億円**という流出は、2014年11月にもあった。だが、今回とは異なる点が多い。2014年11月は1か月で約9,100億円と1993年3月以来20年以上ぶりの大きな純流出の時である。2014年11月7日にかけての1週間での-6,670億円という流出はリーマン・ショックを含む2008年1月からのデータで最大の資金純流出である(国内の単位型及び追加型投信で、ETFとMMF等日々決算型は除く)。2014年11月5日から9営業日連続純流出となり、うち、4営業日で今回の**-1,610億円**を上回る純流出となっている(11月5日-2,458億円、11月6日-1,643億円、11月7日-2,532億円、11月10日-1,863億円～日本の投信/除くETF)。また純流出の約4分の3を日本株ファンドが占めていた。当時と比べると、今回は金額も小さく、純流出期間も短い。

後述するが、2024年8月1日～8月7日の日本株大幅下げ局面の純流入1～5位は日本株大型グロース、グローバル株、北米株、日本株大型ブレンド、トレーディングレバレッジド/インバース株だ。

今回、解約を牽引したのは(日本株ファンドでなく、前頁下方のグラフに示される通り、米国株やグローバル株のファンド等である。2024年8月7日(水)の解約超**-1,609億円**が大きいのも、日本版ブラックマンデーの8月5日(月)に海外資産投資ファンドの解約申込をした人がかなり多かったという事である(8月5日15時までに解約申込をする国内資産投資ファンドは8月5日基準価額解約となって設定・解約額の8月6日に反映、海外資産投資ファンドは8月6日基準価額解約となって設定・解約額の8月7日に反映される)。さらなる金融経済教育、行動コーチング等アドバイスが求められる所であろう(2024年8月8日付日本版ISAの道 その407「日経平均が過去最大の下げと上げ!

金融経済教育、行動コーチング等アドバイスが求められる時～ハイテク(半導体)株やインド株を含む多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証～」～ https://www.am.mf.jp/report/investigate/oham_240808.pdf)。

※1: 「日本版ブラックマンデー」(米国では「Another Black Monday」、「2024 Black Monday」などと言われる)・・・

2024年8月5日(月)に日経平均が前営業日比**-4,451.28円**/-12.40%(31,458.42円)と**過去最大の下げ幅**を記録し、(米国ブラックマンデー/Black Monday/暗黒の月曜日後に付けた)1987年10月20日の下げ幅**-3,836.48円**/-14.90%を超えた。翌2024年8月6日に日経平均は**+3,217.04円**/+10.23%(34,675.46円)と過去最大の上げ幅を記録した。

その後、8月7日(水)は**+414.16円**/+1.19%(35,089.62円)、8月8日(木)は**-258.47円**/-0.74%(34,831.15円)、そして、8月9日(金)は**+193.85円**/+0.56%(35,025.00円)となって**落ち着いている**(2024年8月8日付投信調査レポートNo.420「日本株が過去最大の下げ・上げを記録した時に日本株ファンドに流入! 米国ではハイテク・公益・ヘルスケアのファンドに流入! インド株や日本株のファンドは流出」～ https://www.am.mf.jp/report/investigate/report_240808.pdf)。2024年8月8日付日本版ISAの道 その407「日経平均が過去最大の下げと上げ!

金融経済教育、行動コーチング等アドバイスが求められる時～ハイテク(半導体)株やインド株を含む多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証～」～ https://www.am.mf.jp/report/investigate/oham_240808.pdf)。

8月8日にQUICK(資産運用研究所)が「国内公募の追加型株式投資信託(上場投資信託=ETFを除く)は7日、設定額から解約額を差し引いて**1609億円の資金流出超過**(QUICK資産運用研究所の推計)となった。1000億円以上のまとまった資金流出は、新NISA(少額投資非課税制度)が始まってから初めて(図表1)。

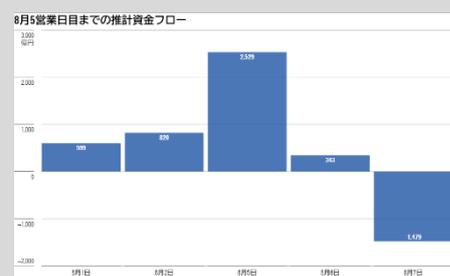
今年1月4日から8月7日までの日々の資金動向を調べたところ、資金流出になったのは**わずか3回**(4月5日、7月8日、8月7日)。7月以降は推計値だが、今回の資金流出額が最も大きい。**最近の株式相場や為替相場の乱高下を受けて、投資家が保有していた投信をあわてて売却に動いた可能性がある。**



(強調下線は当コラム筆者、2024年8月8日付Quick「オルカンなど主要ファンドから資金が流出 7日の投信」～ https://moneywatch.jp/news/05_00126746.news)と報じた。

8月9日にモーニングスター・ジャパン「8月の各営業日毎の推計資金フローを見ると(日本籍の公募投資信託のうち、確定

拠出年金専用、ならびにファンドラップ/SMA専用ファンド以外のファンドについて)、8/5の2,529億円、8/6の343億円と4営業日目までは純流入が続いたが、8/7は1,479億円の純流出となった。…(略)…。資金フローのデータは約定日の翌日のものとなるので、8/5の資金フローは8/2に約定したものととなる。また、全世界株式指数(「オルカン」と呼ばれることが多い)や米国株式を代表する指数であるS&P500に連動するファンドなど海外資産に投資するファンドの場合、約定日は注文日の翌営業日になることが多いので、8/2約定分は8/1に注文したものが多く含まれている。つまり、**8/5に2,500億円を超える純流入があるのは、月初の積み立て設定分が反映された影響が大きく、他の月でも同様に月初3営業日目に資金フローが膨らむ傾向がある。これに加えて、8/2の日本株式市場の下落を受けて、日本株式インデックス・ファンドに約600億円の資金流入があったことも影響していると考えられる。**一方、8/7は約1,500億円の純流出となっており、1日の純流出の規模としては極めて大きく、足元6月以降ではほぼ毎営業日プラス(純流入)で推移していたものが、マイナス(純流出)になったということは無視できない事象であろう。」(強調下線は当コラム筆者、2024年8月9日付モーニングスター・ジャパン「市場急落をうけての投信市場動向、一部でパニック売りも逆張り投資家も存在」～ https://shoten.co.jp/news/0809_fund_flow/)と報じた。



投信を保有する一般投資家に金融経済教育や行動コーチング等アドバイスを提供する必要がある資産運用業界にとって、とても重要な情報である。引き続きQUICK(資産運用研究所)やモーニングスター・ジャパンなどにはこうした情報提供を期待している。

定例の公募投信(除くETF)の最新8月7日週、8月1日～8月7日という日本株大幅下げ局面での純設定額+2316億円について分類別に見る。先述通り、**純流入1～5位は日本株大型グロース、グローバル株、北米株、日本株大型ブレンド、トレーディング-レバレッジド/インバース株。**日本株大型グロースは個別にみると、日経225連動インデックスファンドによるところが大きい。

7月初旬まで旺盛な流入が続いていたインド株は減速傾向にあり、2022年9月以来約2年弱ぶりの純流出。インドでインド(国内)への投資抑制要因となる上場株式のキャピタルゲイン税引き上げ、外国投資家に対する長期国債の投資制限が相次ぎ発表されている(2024年7月29日付投信調査レポートNo.419「インドがキャピタルゲイン税の引き上げ！インドに投資するファンドの総経費率に注意!!米国で小型グロース株が純流入」～

https://www.am.mof.go.jp/report/investigate/report_210729.pdf、2024年5月13日付日本版ISAの道 その401「日米印株式ファンドの総経費率を日米比較！世界で人気のインド株ファンドはNISA本家英国でも人気だが、キャピタルゲイン税/CGTで総経費率が4～6%台?」

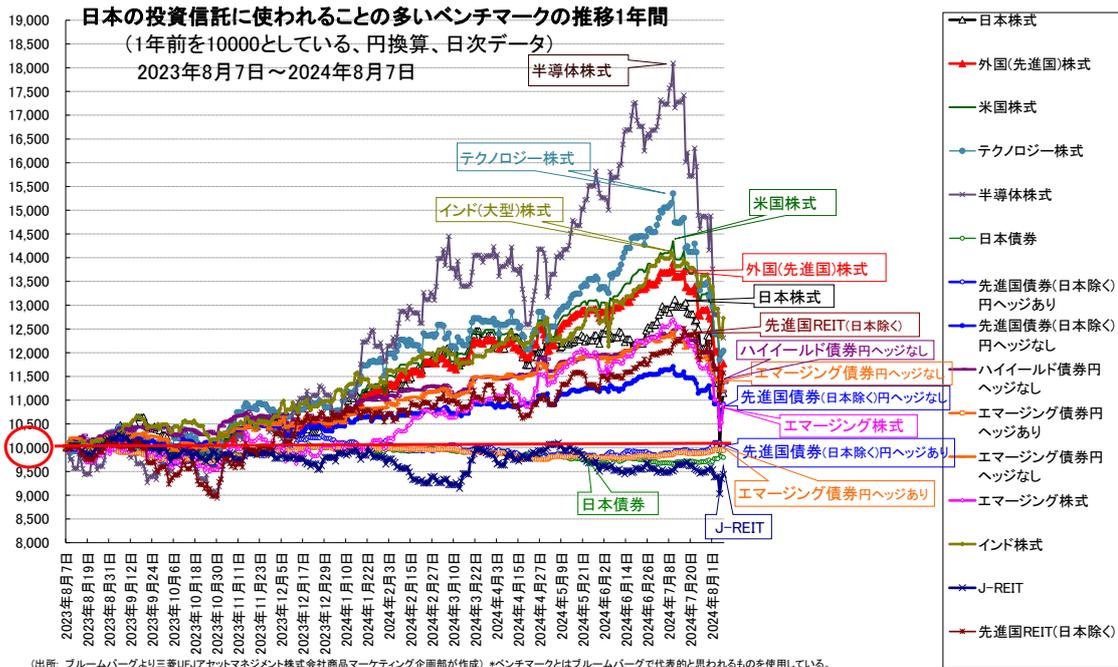
～ https://www.am.mof.go.jp/report/investigate/column_240513.pdf、2024年7月30日付ブルームバーグ「インド、外国勢の長期債アクセス制限－短期国債の流動性向上を図る」～ <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2024-07-30/SHEFWYUJUMW90>)o

● 日本の投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順) 2024-08-07現在
***ETF・MMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。**

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万円)	純流入 前週 (百万円)	純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)	備考 (和訳は三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部)
上位 10 分類 ↑	1 Japan Large-Cap Growth Equity	+127,392	+109,481	+317,714	5,562,002	日本株大型グロース
	2 World Equity	+69,534	+62,259	+298,759	14,900,029	グローバル株
	3 North America Equity	+58,907	+92,148	+455,943	17,726,598	北米株
	4 Japan Large-Cap Blend Equity	+23,830	+41,691	+97,913	4,412,233	日本株大型ブレンド
	5 Trading - Leveraged/Inverse Equity	+20,806	+30,347	+65,814	542,970	トレーディング-レバレッジド/インバース株
	6 Japan Large-Cap Value Equity	+11,854	+12,909	+44,331	1,291,257	日本株大型バリュウ
	7 World ex-Japan Bond	+10,867	+41,318	+60,211	3,027,177	グローバル債-日本を除く
	8 Moderately Aggressive Allocation	+7,967	+16,070	+54,658	4,143,889	モデルポート・アグリッシブ・アセットアロケーション
	9 Japan Specialty Equity	+5,915	+5,651	+18,674	588,596	日本・特定テーマ/セクター株
	10 World Bond	+5,747	+8,822	+22,921	1,703,187	グローバル債
↓ 下 位 10 分類	49 Japan Small/Mid-Cap Growth Equity	-124	+27	-4,980	933,969	日本中小型グロース株
	65 Japan Other Equity	-337	-41	-1,838	361,606	日本その他株
	81 Japan Small/Mid-Cap Value Equity	-1,642	+1,882	-559	1,140,215	日本中小型バリュウ株
	84 Japan Small/Mid-Cap Blend Equity	-2,251	-345	-3,236	224,584	日本中小型ブレンド株
	87 World Bond - JPY Hedged	-3,942	+752	-468	1,782,055	グローバル債-円ヘッジ
	88 Risk Control Allocation	-4,282	-2,451	-12,319	1,222,116	リスク・コントロール・アセットアロケーション
	89 North America Equity - JPY Hedged	-4,417	-863	-12,828	631,878	北米株-円ヘッジ
	90 India Equity	-4,420	+10,695	+49,438	2,865,011	インド株
	91 Japan Money Market	-4,764	-5,281	-15,327	30,806	日本マネー
	92 Japan Bond - Long/Intermediate	-7,736	-2,336	+4,865	3,979,956	日本債-中長期
	93 World REIT	-8,756	-5,200	-21,514	1,782,003	グローバルREIT
	94 Japan REIT	-9,471	-10,915	-25,820	2,191,230	日本REIT
	95 World ex-Japan Equity	-22,018	+43,037	+84,659	10,204,827	グローバル株-日本を除く
	96 World Specialty Equity	-34,862	+4,996	+3,671	11,233,325	グローバル・特定テーマ/セクター株
	全96分類の合計	+231,596	+490,790	+1,520,633	120,201,887	
	指数名	リターン※ 最新週 (%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)	-10.92	+0.05	-14.43			
S&P500	-5.83	+1.77	-7.66			
MSCI ワールド	-5.56	+1.60	-6.62			

(出所: Morningstar Direct及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。

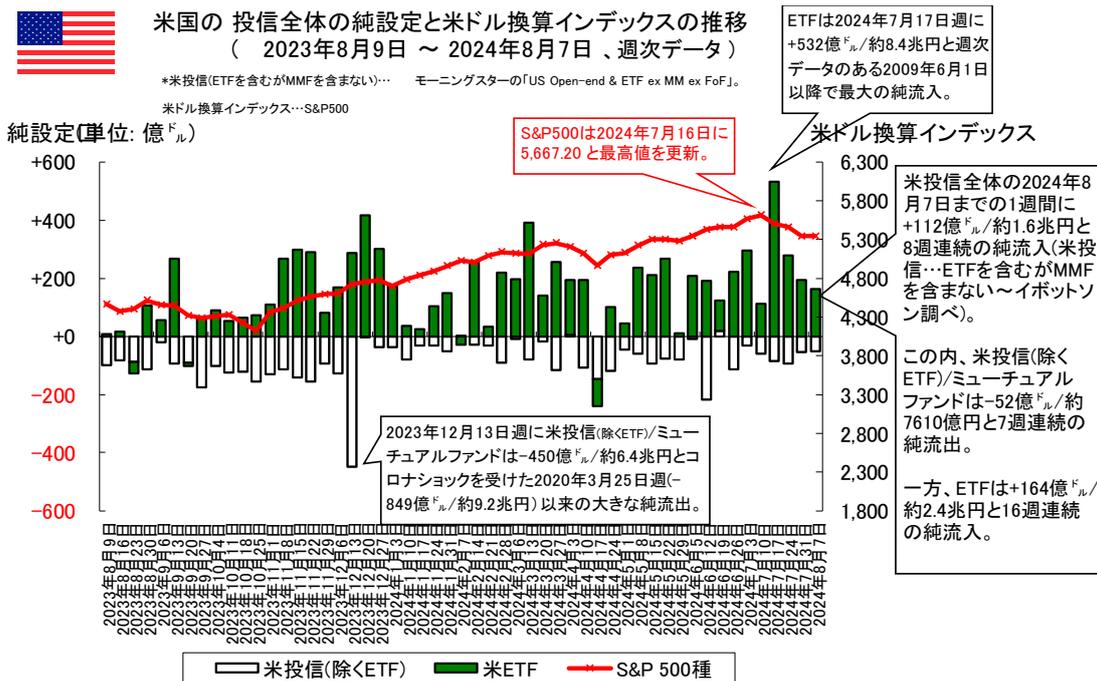


●米国ではハイテク株や日本株が解約超、インド株や公益株が設定超

米投信全体の純設定/資金フロー(推計)は、2024年8月7日までの1週間に+112億^{ドル}/約1.6兆円と8週連続の純流入(米投信…ETFを含むがMMFを含まない～Morningstar Directより)。このうち、米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは-52億^{ドル}/約7610億円と7週連続の純流出。一方、ETFは+164億^{ドル}/約2.4兆円と16週連続の純流入となった(継続的なミューチュアルファン

ドの純流出とETFの純流入にはミューチュアルファンドからETFへのコンバージョン/転換も寄与…2023年11月27日付日本版ISAの道 391「アクティブ運用型ETFが米国を中心に世界で急増!」～http://www.am.fmg.jp/report/ir/issue/colomn_211127.pdf)o

S&P500は2024年8月5日に5,186.33と2024年5月6日以来安値を付けた後、8月7日に5,199.50と直近7月16日の最高値(5,667.20)から-8.3%下となっている(2024年8月9日は5,344.16)。



(出所: Morningstar Direct及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*米モーニングスターが発表する週次の純設定額(推計)は、算出時点で入手できる投信による推計であり、随時更新される(本レポートは作成時点の最新値を使用)。

その中、2024年8月7日週の投信全体(含むETF、除くMMF)純設定額を分類別に見る。 **米国株は+51億ドルと4週連続の純流入も減速傾向。セクター株は-27億ドルと2週ぶり純流出、外国株は-26億ドルと4週連続の純流出。債券は+98億ドルと10週連続の純流入。** オルタナティブは-1億ドルと2週連続の純流出、コモディティは+2億ドルと7週連続の純流入も直近4週で最も小さな純流入。

投資対象をより細かく分類別に見る。 **純流入1~3位は、米国大型ブレンド株(S&P500連動など)、トレーディングレバレッジ株式(プル型)、米國中長期コア債。** 7月中頃まで流入の続いていた米国大型グロース株は-41億ドル/約6064億円と3週連続で純流出となり、3週連続の全122位中最下位。一方、ハイテク株(米国テクノロジー株)は-2.8億ドル/約412億円と前週(+8.6億ドル)から再び純流出に転じて102位(←前週8位)。

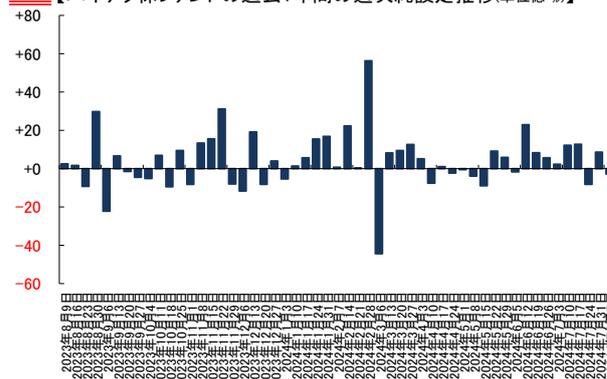
米投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順) 2024-08-07現在
 *ETFを含むがMMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万ドル)	純流入 前週 (百万ドル)	純流入 4週計 (百万ドル)	純資産 (百万ドル)	備考 (和訳は三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部)
上位 10 分類 ↑	1 Large Blend	+12,336	+7,108	+43,792	4,102,257	米国大型ブレンド株(S&P500連動など)
	2 Trading—Leveraged Equity	+2,452	+2,471	+7,299	77,406	トレーディングレバレッジ株式(プル型)
	3 Intermediate Core Bond	+1,833	+1,875	+6,978	703,598	米國中長期コア債
	4 Intermediate Core—Plus Bond	+1,666	+778	+2,635	605,078	米國中長期コアプラス債
	5 Intermediate Government	+1,593	+726	+4,266	212,106	米國中長期国債(4-6年)
	6 Long Government	+1,094	+1,217	+3,087	138,922	米国長期国債(6年超)
	7 Corporate Bond	+1,080	+337	+5,030	166,888	社債
	8 Foreign Large Value	+907	+296	+811	156,734	外国株大型バリュー株
	9 Real Estate	+865	-9	+1,204	92,794	米国REIT
	10 Ultrashort Bond	+854	-606	+1,601	316,403	米国超短期債
↓ 下位 10 分類	16 Utilities	+692	+601	+1,897	41,091	公益株
	26 India Equity	+186	-72	+183	20,814	インド株
	98 Health	-255	+157	+56	133,830	ヘルスケア株
	102 Technology	-281	+855	+1,032	312,861	米国テクノロジー株
	104 Japan Stock	-318	-316	-555	34,503	日本株
	113 Communications	-550	-723	-1,375	32,672	通信株
	114 Small Growth	-551	+11	+199	178,167	米国小型グロース株
	115 Digital Assets	-731	-1,260	+69	59,480	デジタル資産(ビットコイン等)
	116 Foreign Large Growth	-863	+217	-1,171	368,312	外国株大型グロース株
	117 Diversified Emerging Mkts	-1,340	-1,405	-2,519	535,799	グローバル・エマージング株
	118 Large Value	-1,349	+791	-298	1,351,512	米国大型バリュー株
	119 Financial	-1,426	+107	+1,566	76,468	金融株
120 Small Blend	-1,754	+1,808	+8,581	428,083	米国小型ブレンド株	
121 Bank Loan	-2,855	-170	-2,042	71,945	米国バンクローン	
122 Large Growth	-4,136	-3,087	-8,247	1,961,365	米国大型グロース株	
全122分類の合計		+11,210	+14,190	+88,985	18,984,363	
指数名		リターン※ 最新週 (%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)		-10.92	+0.05	-14.43		
S&P500		-5.83	+1.77	-7.66		
MSCI ワールド		-5.56	+1.60	-6.62		

(出所: Morningstar Direct及びブルームバーグより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。

【ハイテク株ファンドの過去1年間の週次純設定推移(単位億^{ドル})】

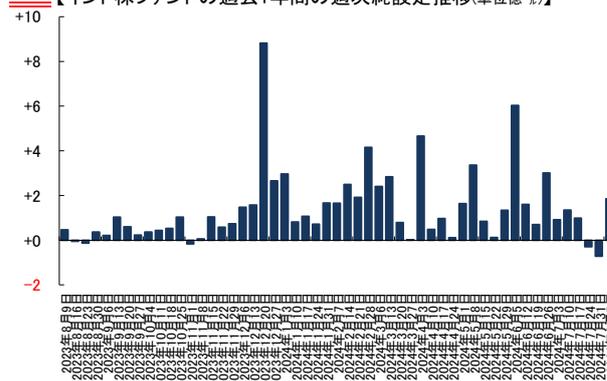


(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

前述の通り、インド株はインド(国内)への投資抑制要因となる上場株式のキャピタルゲイン税引き上げ、外国投資家に対する長期国債の投資制限が相次ぎ発表されている(2024年7月29日付投信調査レポートNo.419「インドがキャピタルゲイン税の引き上げ! インド株に投資するファンドの総経費率に

注意! 米国で小型グロース株が純流入~ https://www.am.af.f.jp/report/investigate/report_34729.pdf)。 **インド株は前週まで2週連続で純流出となっていたが、最新8月7日週は+1.8億^{ドル}/約272億円と3週ぶり純流入に転じた。全122分類中26位(←前週93位)。**

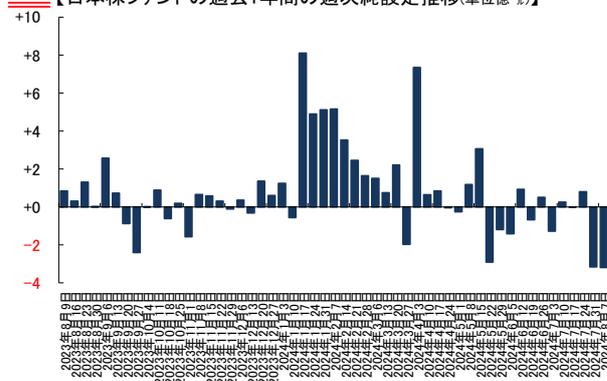
【インド株ファンドの過去1年間の週次純設定推移(単位億^{ドル})】



(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

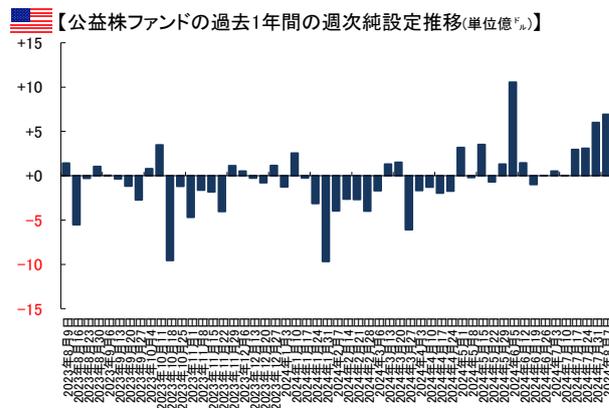
日本株は-3.2億^{ドル}/約466億円と前週(-3.2億^{ドル})と同水準の純流出となり、104位(←前週111位)。日本では日本株ファンドが純流入だったのと対照的に米国では純流出となっている。

【日本株ファンドの過去1年間の週次純設定推移(単位億^{ドル})】



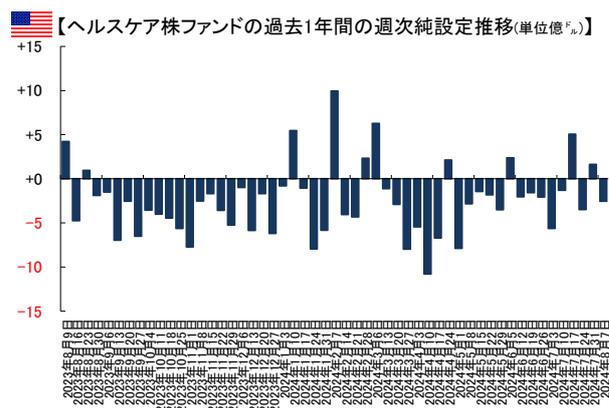
(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

ディフェンシブ銘柄についても見てみる。公益株は+7億^{ドル}/約1014億円と前週(+6億^{ドル})を上回り、7週連続の純流入で加速傾向、全122分類中16位(←前週16位)。



(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

同様、ディフェンシブと呼ばれるヘルスケア株は-2.6億^{ドル}/約374億円と前週(+1.6億^{ドル})から純流出に転じて、全122分類中98位(←前週31位)。



(出所: Morningstar Directより三菱UFJアセットマネジメント商品マーケティング企画部が作成)

以上

三菱UFJアセットマネジメント【投信調査コラム】日本版ISAの道(及び投信調査レポートの一部)のバックナンバー:

「 <https://www.am.mufg.jp/report/investigate/> 」。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 商品マーケティング企画部

松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、

窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

■本資料はNISA(少額投資非課税制度)など内外の資産運用に関する情報提供のために、三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

■本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

■本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の筆者の見解です。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

■投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

本資料中で使用している指数について

■TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

■MSCI ワールド インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会